



月刊 おかじょうき

<http://www.okajoki.com/>

2022

6

無人駅鑑賞「カンテラ」 むさし	4
会員雑詠集「無人駅」	7
■例月句会結果■	
おかじょうき川柳社 5月月例会	19
川柳吟行会「ぼ」	25
十和田たてがみ川柳会 4月句会報	29
■連載■	
「深艘心理」 奈良一艘	24
Infomation	31～

カンテラ

むせし

当柳社の5月例会月会と月刊おかしょうき今号の無人駅に寄せられた句を見ると、ロシアのウクライナ侵攻に関する句が増えている。

川柳は時を写す鏡のようなものだから当然のこと。それにしてもロシアとウクライナの戦争、言い換えればロシアとそれ以外の国の戦争、一体いつまで続くのか。いい加減にしてやめてくれ。

それではカンテラに明かりを灯しましょう。

A群

トコロテンの気持ち今朝はよくわかる	夏草ぶぶき
また来たと店員の目が言っている	達昆虫
春らしくウサギも黄色く塗りました	辻井洋子
間を置いて貧乏神がやって来る	土田雅子
百までは生きなくていいだかし	村井規子
反芻し了えても未消化のサヨナラ	きざらぎ彼句吾
負けた日の自分の背中見ていない	三浦蒼鬼
昨日ゆず今日は沢庵切る包丁	村上てる

村上てるさん、「ゆず」と「沢庵」って同じ食べ物でも思いつきり違う組み合わせですね。「包丁」は洗えば元どおりきれいになるから、明日は牛肉も切ることができそうです。もしかしたら「ゆず」も「沢庵」も「包丁」も比喻で、それぞれ癖の強い人間のこともかもしれませんね。

B群

言の葉をこんなにもまあ散らかして	齋藤泰子
錆付いた背中に桃の種埋める	熊谷冬鼓
Twitterでつぶやいている産毛たち	ひとは
オットセイのように笑って決めました	まきこ
私の左手天皇家の右手	須藤しんのすけ
理系の靴音で夜がやってくる	米山明日歌
黒鍵の深いところにいるカモメ	ひとり静
種を買ったわたしを土が育ててる	吉見恵子
ついてってみよう知らない人だから	葉 閑女

C群

サラミの脂身からポーカーの誘い	岩根彰子
饒舌な脂肪を少し黙らせる	芝岡かんえもん
自販機で春の雨冠を買う	守田啓子
風呂桶で養われているメタバース	小野五郎
桃が欲しいか。イワンのバカ	奈良一艘

岩根彰子さん、不思議なところからお誘いがありますね。ポーカーって、スリーカードとかロイヤルストレートフラッシュとかって、あのランプのゲームだよ。ね。そのお誘いが「サラミの脂身」から来るって、他はどん

なメンバーなんだろう。豚肉の白身とか牛すじとかいたりしてね。ジエームズ・ボンドとかっている？

芝岡かんえもさん、「脂肪」って、もしかしたらおなかの辺りのぷよぷよのこと？あれって、ちよつと増えただけでも体型が一挙に変わって見えるからなあ…。それが「饒舌」ってこともね。で、かんえもさん、どうすればそれを「黙らせる」ことができるのですか。いい方法があったら教えて欲しいんだけど。

守田啓子さん、不思議な自販機ですね。「春」でもなく「春の雨」でもなく、「春の雨冠」を売ってる自販機なんて聞いたことがありません。「春の雨冠」を買ったひとがいるという話も聞いたことがありません。啓子さん、「春の雨冠」をどうするんですか？家でティアラの代わりに頭につけてるんじゃない？ところで、その自販機ってどこにあるんですか？

小野五郎さんは確か超アナログ派でしたよね。それがどうして「メタバース」なんて知っているんですか？「メ

タバース」って、インターネットを利用した「仮想空間」で交流やサービスを楽しむ場所のことでしょう？それを「風呂桶」で養っているなんて、なんてことだ。ところで、その「メタバース」を「風呂桶」で養っているひとは五郎さんですか？

奈良一艘さん、この句、大谷翔平選手が放つ^{150km}スプリットぐらいの迫力があります（笑）ウィキペディアに「イワンのばかはロシアの民話にしばしば登場する男性キャラクター。極めて純朴愚直な男ではあるが最後には幸運を手にすることが多い。」とあります。でも、この句の「イワンのバカ」は言葉そのままに理解すべきですよ。もしかしらこの「イワン」君、ここ数十年ウラジーミル・プーチンと名乗っていませんか？

おかじょうぎ川柳社会員雑詠集

無人駅

★無人駅5月月間賞

尾鰭ひるがえし完了形にしちやえ

きさらぎ彼句吾

吉田吹喜【よしだふぶき・青森県弘前市】

家族写真とても平和で空っぽで
でたらめな勤務時間で人に酔う
じゃあまたね 黄色い星がポと灯る
小さな灯あつたかくつて美しい
バラ色の花に変わつてゆく思い

先月号のお気に入り
猫ふんじやったからはじまる僕の春 柳本恵子
猫ふんじやったが こんなに春にびったりだとは 気づ
きませんでした

吉見恵子【よしみけいこ・青森県青森市】

潮の目に巻き込まれてく蝸牛
花を待つ旅路の空を青くして
種を買うわたしを土が育ててる
紋白蝶 不要不急を愛しめば
もどらない時間はながく湯気の中

先月号のお気に入り

四ツ屋いずみ【よつやいずみ・北海道札幌市】

太陽をいっぱい積んで風を読む
昨日にはあつかんべえとピンクムーン
セロトニン含有100の東風ですが
可憐にも見せてミモザの肝っ玉
真相をグラムチャウダーから掬う

先月号のお気に入り
地吹雪が吹き荒れている ほうれい線 ひとは
わかりますー時にはブリザードの時もあります。

米山明日歌【よねやますか・静岡県長泉町】

つくづくと思うところにある斜線
困るほどドアばかりある春の部屋
有志だけ押すことできる春のヘソ
理系の靴音で夜がやってくる
やっかいなあなたのような両手鍋

先月号のお気に入り
息継ぎの短い人と合わず息 笹田かなえ
こりや、大変です。想像しただけで、過呼吸になりました。

渡邊こあき【わたなべこあき・青森県青森市】

よげしやべりいらなぐ出す手姉気質
深夜便耳が世界を駆け回る
お汁粉が喉を焼いてる戻り寒
ダイヤ型マスク目と目で通じあっている
はちまきをしめたら歩きだせそう

先月号のお気に入り
好き勝手はじまる春の音合わせ 斎藤泰子
自分勝手な者同士、つまくハモることができるとは、しょうか。

安藤なみ【あんだうなみ・愛知県瀬戸市】

脇腹に養生訓が根を張って
犬猫に知られたヒトのけだもの臭
こんなにもかわいいフレンチステーキ
奥行がゼロに等しい鼻の穴
飛び石の上でバランスとってみる

先月号のお気に入り
図鑑にはない花ばかり気にかかる 葉閑女
遺伝子組み換えてどんとん増えてきました。

岩根彰子【いわねあきこ・京都府京都市】

袖口をちつちやいフレディマーキユリー
サラミの脂身からポーカーの誘い
服用するわランチョンマトの隠し芸
取り合えずカトちゃんペつする三回忌
水あずきの天辺アルカイックスマイル

先月号のお気に入り

上村夢香【うへむらゆめか・山口県岩国市】

大自然と手に手を取って地球号
風に遊ぶ裏話聴く昼下がり
ブレーキをかけてくれるは天の声
棲みついた鬼がなかなか出ていかず
女子会はあつという間に盛り上がり

先月号のお気に入り
生きている自体誰かの恩返し 三浦蒼鬼
つくづく生かされているんだなーと。

小野五郎

【おのごろう・青森県青森市】

ひまわりの葬列続く風の道
不発弾ゴロゴロ夜道が遠すぎる
風呂桶で養われてるメタバース
フェンダーの泥ひよっこりミズバシヨウ
草いきれ遙か彼方のダスビダーニヤ

先月号の
お気に入り

きさらぎ彼句吾

【きさらぎあくあ・青森県弘前市】

すがつてしまえばもうワイファイのファイに
踏み尽くせない無い物ねだりする影を
流水押し寄せる病床の虜囚
反芻し了えても未消化のサヨナラ
黒髪から折られたもうか韻踏んで

先月号の
お気に入り

あの人が気になるドアの半開き 瀧尻善英
半開きなんかで気を引くなんてズルいよねえ「深く忘れ
なさい」と自分に言い聞かせています

坂本清乃

【さかもとときよの・青森県蓬田村】

髪洗い正座して待つ芽出し芋
赤信号今だと赤い種を蒔く
春だ春だうかれ土竜の穴に落ち
俺だつてホップステップ春の靴
春借りて旅に出ようとふくらはぎ

先月号の
お気に入り

笹田隆志

【ささだたかし・青森県青森市】

モンブランが霊柩車から降りてくる
文学賞とりそこなつた暗ロシア
プーチンの香典にするプルトニウム
セシウムを小鹿に載せて宅配する
そろばんをはじいてみればこころよい

先月号の
お気に入り

ねえあなたわたしの海はふかいわよ 芝岡かんえもん
深い海に沈んでいきたくありません

熊谷冬鼓

【くまがいたうこ・青森県青森市】

葉桜の古木と風を聞いている
住み慣れて匂を戴く ここが一番
乾杯のグラスがどうにも見つからぬ
躓くかどうかページは捲るもの
錆付いた背中に桃の種埋める

先月号の
お気に入り

（あの国大丈夫かな？）「レジ袋、要りますか？」 S i n
レジ前でふと我に。今を切り取って巧い。

斎藤泰子

【さいとうたいこ・秋田県大館市】

言の葉をこんなにもまあ散らかして
泣いてみるピーピーケトルなくように
悲喜劇に揉まれて涙使い切る
しずしずと前例をはみ出さぬよう
たそがれています大事な時間です

先月号の
お気に入り

閉め切った窓をいくつも持っている 渡邊こあき
ああそうだった。私にもあった。思い出してしまった。

芝岡かんえもん

【しばおかかんえもん・神奈川県横浜市】

覚悟せよ僕のマイナスイオンドライバー
逆上がりアガル途中で禿げている
大雑把になれば月になれるから
トンカツに会いにいけない禁固刑
饒舌な脂肪を少し黙らせる

先月号の
お気に入り

タクト振る 春には春の振り方で 柳本恵子
そうだい心機一転頭張らねばと。頭の中でヨハンシュトラ
ウス春の音が流れました。

城後朱美

【じょうごあけみ・福岡県八女市】

夢ばかり見てまだ夫に恋してる
出会いなど期待はしない髪染める
山登る男友だち引き連れて
女子会に起承転結なんてない
お母さんお菓子を食べる時間だよ

先月号の
お気に入り

海へ還る日のカニカマの憂鬱 奈良一艘
カニカマはどんな顔で海に還るのかなあ？かぐや姫と比
べてみたい。

Sin

【しん・青森県外ヶ浜町】

のぬるりと そんな舌触りであれ
隠れ家のよな ガラス張りのよな
抜け駆けをしたがつている生殖器
指立てていたところにちようど
盗撮の画角に収まらない5月

先月号の
お気に入り

メタンエタンプロパンブタン オミクロン 葉閑女
メタンエタンプロパンブタン オミクロンシン

須藤しんのすけ

【すとうしんのすけ・青森県弘前市】

ミニスカでかつこむ牛井特盛
私の左手天皇家の右手
紫の袈裟から恋の歌恋の歌
真ん中にひとり作ってひとり死ぬ
浮気をすると火がつくものなあくんだ

先月号の
お気に入り

過去帳の一月ばかり混んでいる 吉田州花
一月は一年で最初の特別な月。生きている時はもちろん、その後も色々考えてしまうと思つ。今年も良い年でありますように(白掌)。

達毘古

【たつひこ・富山県高岡市】

友は語る緻密になつた僕の論
また来たと店員の目が言っている
僕も外で引きこもれないかなあく(亀)
シャバーサナ上手になつて黄泉帰る
尿道痛に身悶えて月を嘔む

先月号の
お気に入り

今日もまた振られたのです 再起動 むさし
再起動すればいいのか、なるほど。

田中薫

【たなかかおる・青森県弘前市】

逝つちやつた桜から一粒のなみだ
逝くまでのステージわたしのステージ
並べ替えただけの人生それだけ?
築くのは we are 壊すのも we are
家族というルーツ噛み締め背をつかむ

先月号の
お気に入り

この国をバカ息子だと想う冬 達毘古
その通りでした

瀧尻善英

【たきじりよしひで・青森県八戸市】

白羽の矢この運命と添い遂げる
上げ潮へキングコングになつた猿
前衛の墨へ宇宙が見えてくる
アンテナを一本立てている魔除け
死んだふりして回避する名演技

先月号の
お気に入り

除雪車に罪ないけれどまだ夜中 村井規子
津軽地方ならではの一句。雪に慣れない八戸地方では、雪が降ると除雪車が家の前にドンと雪を置いていきます。

田久保亜蘭

【たくぼあらん・秋田県五城目町】

停車場に降りた普通の顔をして
短編は顔面工事終了後
職員は全員裸婦から睨る
税務署の正門潜る裏帳簿
刺し傷は斜め向かいなハリウッド

先月号の
お気に入り

旅男

【たびお・青森県五所川原市】

局部の患部二人の堪忍袋
お袋の煮こんぶ溶けて創世記
造り給え孝行のリトマス紙
折鶴の色は褪せるし死んでるし
しわがれた情のキヤタピラ明日をのす

先月号の
お気に入り

どうしたらそんなに春でいられるの 芝岡かんえもん
家が、家が、一生が、日本の鶯はホーホケキョ。

辻井洋子

【つじいようこ・青森県青森市】

キンチョール逃げるムカデに手を下す
買いに行く苦い話しに着せるシャツ
自由というスカイブルーな風の色
春らしくウサギも黄色く塗りました
付加価値を付けてスギナは闊歩する

先月号の
お気に入り

カマキリのセンチメンタリテイ マジか 土田雅子
そういえばメスがオスを食べちゃうんですよね! ショッ
キングでした!

土田雅子【ちただまこ・青森県青森市】

遠雷や胸の高鳴り留め置く
曖昧にしとく火の元と足元
間を置いて貧乏神がやって来る
有り体の親ガチャ子ガチャばっけみそ
神様が下さる毎日の苦行

先月号の
お気に入り

好き勝手はじまる春の音合わせ
斎藤泰子
各々の春が始まりましたね！

夏草ふぶき【なつくさふぶき・青森県青森市】

右手だけ振り向きもせず老けていく
潤滑油を買ってとねだる股関節
笑顔さえ固定しとけばうまくいく
水疱が三つおでこに居座った
トコロテンの気持ち今朝はよくわかる

先月号の
お気に入り

奈良一艘【ならいつそう・青森県弘前市】

天蕎麦をズルズルTVでは虐殺
んな事は知るか！ラスプーチンの鼻の
ただあわあわと死んでく指鉄砲
そもそもは武漢の蝙蝠とロシアの戦車
桃が欲しいか。イワンのバカ

先月号の
お気に入り

元通りブラジャーだけを干した朝
芝岡かんえもん
どした？何の罪でカミさんの下着洗濯係に降格したのさ。浮気未遂
罪かあ。やっぱね。納得。色男は辛いわなあ。お互いにね。うむ。

鳴海賢治【なるみけんじ・青森県つがる市】

最近の僕の写真が見えたらぬ
近頃はインからアウトになりました
気が滅入ることありすぎる星の夜
生活がかかっていきますほしぶどう
ぐいのみのおおきさうのみにしている

先月号の
お気に入り

許すとは春の林檎のやわらかさ
熊谷冬鼓
思い遣りを素直に感じました。

ひとは【ひとは・青森県黒石市】

狂ってるつもりはないとヘソを見る
時々エクボが邪魔で笑えない
白髪染めしてからたぶん発情期
Twitterでつぶやいている産毛たち
防災マップ私が川になっている

先月号の
お気に入り

ウン泣きの間におべっか三つ言っ
まきこ
おべっかを三つ言っのがウン泣きのコツですね。

ひとり静【ひとりしずか・奈良県大和郡山市】

ペンギンの憂鬱ずれてゆく世界
黒鍵の深いところにいるカモメ
考えるベンチにいつも鳩がいる
夕暮れを引つ張るように飛ぶツバメ
取説にセキセイインコ並んでる

先月号の
お気に入り

あなたの狡さわたしの愚かミルフィーユ
ささらぎ彼句吾
ミルフィーユが食べ難いはずだ。

まきこ【まきこ・青森県青森市】

オットセイのように笑うと決めました
乾杯乾杯ここは地獄の三丁目
台所の隅でゆるりと悪だくみ
日向ぼっこやつとここまで生き延びた
金運はよかったなんて言うウサギ

先月号の
お気に入り

頼んでもないのに桜が吹雪いてる
小野五郎
そうです。頼んでもないことが世の中多すぎますわ。

まみどり【まみどり・青森県黒石市】

会いに行くいびつな指になったけど
今さらに指のサイズを聞かれても
満開になって見事な足さばき
宝石は望んでいない桜めし
葉桜になって気楽なりスタート

先月号の
お気に入り

ミカン剥く誰かとしたい無駄話
渡邊こあき
わかるなあ、りんごだとそうならないよね。

三浦蒼鬼【みうらそうき・青森県黒石市】

雨の日は雨の方程式を解く
負けた日の自分の背中見ていない
運命でした 他人には結果論
ちよい悪の四角に憧れてしまう
手の甲とピエロは同じ括りです

先月号のお気に入り
正しいと信じて手首まで入れる
一度信じたら最後まで・・・見習いたいですね
ひとり静

宮井いずみ【みやいいずみ・大阪府大阪市】

ぽいぽいと捨てて戒名まで捨てて
究極のコツは陽気にパピペポ
特上のムラサキ監視カメラ用
方舟からはみ出すマツコデラックス
四十九日にもやしの根まで取る男

先月号のお気に入り
さんずいにして差し込む中指の角度
きな臭い時流を変えるには斜め60度くらいでしようか。
須藤しんのすけ

村上てる【むらかみてる・青森県青森市】

昨日ゆず今日は沢庵切る包丁
説教に反論ますます長くなる
言い訳はマスクでモソモソごまかして
ウクライナ青森空襲想い出す
卒寿くるますますやる気出ています

先月号のお気に入り
能書きはいらない胸を開いてよ
遠回しの表現をさけてはつきり自分の意志を伝えるべき
だと思えます。
渡邊こあき

守田啓子【もりたけいこ・青森県三沢市】

自販機で春の雨冠を買う
夕暮れが似合う在来線のホーム
やぶ椿やがてやぶれて焼け野原
点々と沼だけ残す居た時間
聞けば元気 一字空けには薄埃

先月号のお気に入り
裏切った訳ではなくてアサリ貝
そう、アサリはアサリなんですがね。
宮井いずみ

村井規子【むらいのりこ・青森県大鰐町】

愚かさど欲で出来てる人の垢
ミサイルは今年来ないと桜言う
人生の一軍遠い私です
プーチンの訃報で世界みな笑顔
百までは生きなくていいだかしかし

先月号のお気に入り

村上あつこ【むらかみあつこ・青森県青森市】

消しゴムで無かったことにしたい過去
先がないやりたいことは全部やる
走れなくても大丈夫まだ歩けるよ
人生はあつという間の夢芝居
大揺れの笹舟に乗って彼岸まで

先月号のお気に入り
通りゃんせどう生きたって彼岸花
そう思います。
きさらぎ彼句吾

柳本恵子【やなぎもとけいこ・奈良県奈良市】

こころまで許してしまう うすみどり
雨の日の廊下 君の海になる
とことこと蟻蟻蟻蟻 私
いい風だ とんでみようと思う風
竹の子びゅんと伸び 春の過呼吸

先月号のお気に入り
生きて行くってチャップリンのドタ靴
生きるって悲しくって、小さな幸せがあったり、ほんとに。。。
きさらぎ彼句吾

柳谷たかお【やなぎやたかお・青森県外ヶ浜町】

春風に恋してしまひ桜咲く
じゃがいもの芽が一斉に春歌う
暇そうに春の案山子が立っている
春色は黄色と決めて野へ街へ
ビュンビュンとバイクの群れが目覚め春

先月号のお気に入り

葉閑女【ようかんによ・青森県青森市】

神々も争いごとが好きらしい
そっけない辞書に囚われ吹雪いてる
陰口をエールに替えて狂い咲き
ついてつてみよう知らない人だから
三枚のお札探して三千里

先月号の
お気に入り

何時の間に短くなった喪の帯よ 坂本清乃
和服を着ない私には思いつかない表現です。

むさし【むさし・青森県蓬田村】

「戦争やめろ」と点滅してる土偶の目
ミサイルがウクライナの肩間に芽吹く
ガラスの破片が敷き詰められている背中
プーチンの文字化けだらけの解剖図
凸凹の夕日が俺を呼んでいる

隣で咲いている

おかじょうき川柳社

5月例会

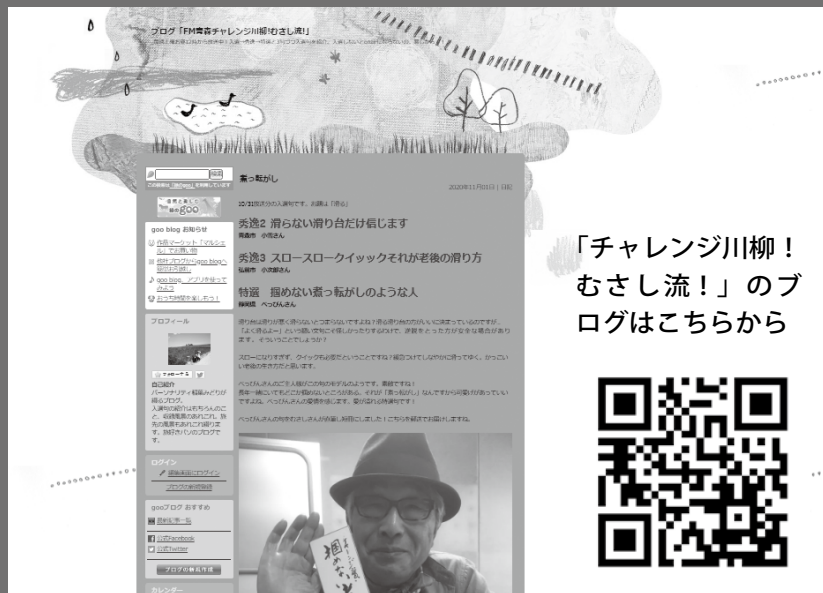
5月7日（土）午後1時～ アウガ5F小会議室

▼出席者（11名）

守田啓子・野沢省悟・熊谷冬鼓・渡邊こあき・葉閑女・田中薫・
奈良一艘・土田雅子・むさし・小野五郎・笹田隆志

▼投句者（24名）

米山明日歌・柳本恵子・安藤なみ・芝岡かんえもん・吉松澄子・
旅男・城後朱美・石橋芳山・岩根彰子・須藤しんのすけ・郷田
みや・村上あつこ・鳴海賢治・吉田吹喜・斎藤泰子・田久保亜
蘭・坂本清乃・宮井いずみ・まきこ・まみどり・きさらぎ彼句
吾・夏草ふぶき・達毘古・三浦蒼鬼



「チャレンジ川柳！
むさし流！」のブ
ログはこちらから



席題『ガラス』

青森県三沢市 守田啓子 選

【佳作】

ポツペンビードロが騒ぎ出すな・み・だ
夏立ちてラムネの瓶の薄ら闇
紛争の破片 憩いのマグカップ
ビー玉が転つていた。じいさんになった。
ガラス戸の中は童話か捕物か
ギヤマンの壺からエマニエルの吐息
春の向こうの首塚の磨りガラスの欠片
ガラス張りだからぶつかる君と僕
窓閉める明日は来ると疑わず
プレパラートで「好きだ」なんて言うな
ビードロになつてしまえば分かります
孤独死の村にガラスの靴が落ちていた
固化体を煮ればなんとかいけそうだ

【特選】

地下壕のない国にいてガラス片

※今をこまく表現してゐる。

田中 薫
土田雅子
田中 薫
野沢省悟
葉 閑 女
奈良一艘
奈良一艘
渡邊こあき
熊谷冬鼓
野沢省悟
奈良一艘
む さ し
小野五郎

熊谷冬鼓

席題『ガラス』

青森県青森市 野沢省悟 選

【佳作】

恋ですか いいえ壊れたガラスです
ガラス張りだからぶつかる君と僕
瓶底でくすぶつていた更年期
風を吐くワイングラスを傾けて
春の向こうの首塚の磨りガラスの欠片
夏立ちてラムネの瓶の薄ら闇
ガラスの城をピアスにしてる老女A
シャワー室をガラスの靴が覗いてる
窓閉める明日は来ると疑わず
青空の淀みを映すガラス窓
ガラスのうさぎが独房に入れられる
ガラスの靴拾う排他的水域
地下壕のない国にいてガラス片

【特選】

固化体を煮ればなんとかいけそうだ

※固化体は放射能廃棄物のこと。「煮れば」に批評がある。

守田啓子
渡邊こあき
熊谷冬鼓
む さ し
奈良一艘
土田雅子
む さ し
笹田隆志
熊谷冬鼓
土田雅子
土田雅子
守田啓子
熊谷冬鼓

小野五郎

宿題『モード』

青森県青森市 葉 閑女 選

【佳作】

いきなりの夏 太陽と戦う素肌
少女期は昭和水玉ワンピース
ルージュひく戦闘モード2段階
珈琲の身の上話でもらい泣き
本日のマイナス思考湯がきます
ピタゴラスの定理たんぽぽ初期化する
この先は日常 杖が置いてある
すだれ状デニムに覗く平和かな
無気質な私に虹の宅配便
右眉が戦闘モードになつて
鶴になるまでマナーモード設定
バージョニアアップして荒海を越えてきた
老いもいよいよ佳境に入る花の乱
さあ飛ばう！マナーモードを解除して

吉田吹喜
渡邊こあき
まみどり
夏草ふぶき
芝岡かんえもん
土田雅子
守田啓子
旅 男
土田雅子
む さ し
米山明日歌
三浦蒼鬼
斎藤泰子
む さ し

宿題『門』

青森県青森市 小野五郎 選

【佳作】

五月へとくぐる蔓薔薇のアーチ
 門口でナズナタンポポにらみ合い
 ゆるやかに遊ぶ肛門 花吹雪
 たったひとりのねじりあめ専門家
 門限が近いぞ流れ流れ星
 舐めてごらん門前払いする前に
 隣の門に監視カメラがあるらしい
 門灯つけて月が来るのを待っている
 葉桜になって訪なう仁王門
 冠木門の奥びかびかの係り助詞
 夜が明けてモジモジし始める門灯
 あっそうか 門番だったのねマスク
 門限をガラスの靴に聞いてみる
 天国の門溢れかえった特売日

宮井いずみ
 葉 閑女
 野沢省悟
 吉松澄子
 石橋芳山
 きさらぎ彼句吾
 城後朱美
 むさし
 熊谷冬鼓
 宮井いずみ
 夏草ふぶき
 吉田吹喜
 郷田みや
 芝岡かんえもん

裏門からどうぞ広くしておきました
 専門はサギ師 趣味は川柳家
 門外不出おでこにペタリ張つてある
 門番にチップ天国に回される
 裏木戸を抜けて枯葉になる予定
 裏門の桜の下へ泣きに行く

【五客】

悪役が専門でした 以下カット
 天国のゲートはいつも揉めている
 眩しくて裏門からは出られない
 番犬に向いてないのによく食べる
 門外漢ですが赤ちゃんの作り方教えます

【人位】

ドアのないくらいお部屋で団子虫

【地位】

表札のリボン待ち人は来ない

【天位】

どこまでが門なんですか母の海

※人間の奥行き広がりを感じさせる作り方。

渡邊こあき
 奈良一艘
 まきこ
 まきこ
 夏草ふぶき
 むさし
 むさし
 土田雅子
 郷田みや
 吉田吹喜
 奈良一艘
 田中薫
 まみどり
 田久保亜蘭

宿題『自由詠』

青森県蓬田村 むさし 選

【佳作】

ねえ「なんかいいね」「なんか」ってなあに？
 元栓をしつかり閉めてからの さて
 指の隙間から運勢確かめる
 糸口はないのかマトリョーシカ揺する
 イントロが長い本気になれずいる
 言つたでしよなんて言わない柚子こししょう
 拝復の先で二晩行き暮れる
 葉桜になる日の音を知っている
 すれ違った人って私だったのか
 春眠のダリの時計の中にいる
 手帖からあふれる妬心夜の雨
 痛いのはカラスの声のする辺り
 落ち椿それで終章とは行かぬ
 きびだんご欲しくて猿になってみる

須藤しんのすけ
 熊谷冬鼓
 三浦蒼鬼
 熊谷冬鼓
 渡邊こあき
 宮井いずみ
 葉 閑女
 葉 閑女
 斎藤泰子
 夏草ふぶき
 柳本恵子
 葉 閑女
 米山明日歌
 葉 閑女
 夏草ふぶき

勲章を墓の形にしてやろう

ラフレシアの種が前頭葉にある

しあわせな肉を売り出す肉屋さん

無欲に死ねるだろうか春のゴスペル

春氷柱レットイットビーぽとぽと

檀山のここから先は面会謝絶

【五客】

排他的経済水域にドクロマーク

一日を人差し指で掻き回す

暗闇であなたを誤嚥してしまう

卑弥呼を生んで卑弥呼を殺す花吹雪

スホーイも海鮮丼にできそうだ

【人位】

水仙ざわわスナイパーを見逃すな

【地位】

紙おむつの数が愛だと言うのかね

【天位】

春蘭の隣で咲いてるジェノサイド

※ウクライナの春の集団殺害は何なの
だ、プーチン君。

達 毘 古
 野沢省悟
 安藤なみ
 奈良一艘
 笹田隆志
 奈良一艘
 土田雅子
 岩根彰子
 米山明日歌
 野沢省悟
 小野五郎
 土田雅子
 奈良一艘
 小野五郎

深艘心理

海火事の兆し鯨が茹であがる

安藤なみ

(会員雑詠集 無人駅4月号より)

海火事を辞書で引いてみると、炎暑のため海も空も燃えるように真っ赤に見える事。潮焼け。とある。なかなかロマンチックな言葉である。

で、掲句をそのまま読めば、「地球温暖化現象で気温は上昇する一方だし、やがては鯨(人類の比喩)も茹であがってしまうんじゃないのさ。元はと言えばその温暖化の原因は便利さを求める余りに環境を破壊した自分達人間がやった事なのに……もう、何やってんだか。ブンブン」というところだろうが、私にはどうもそれ以上の作者の深い嘆きと悲しみがピンピン感じられて仕方のない句だった。

掲句の提出期限は3月15日である。ということからは、2月24日にロシアという大国の独裁者の野望によるウクライナへの侵攻、いわゆる「プーチン

の戦争」が開始されて間もない頃である。毎日のTVやメディアに流れない日は無かったはずだ。とすれば、掲句はその戦争に対しての強烈な時事吟なのだと考えても良いのではなからうか。

つまり、ウクライナに端を発したこの戦争という火の手はやがて全世界に広がり、核使用も含む第三次世界大戦の恐れが出てきた。人類は欲や誤解、面子と言う名の元に何度同じ愚を繰り返せば気が済むのだろうか。という深い深い溜め息に満ちた極めて上質な時事吟なのである。うむ。

この深読みに作者はきつと「えっ、この人相当のバツカじゃね?」とお思いだろうが、ま、そこんところは妄想チヤイとして甘んじてお受けしなればなるまい(汗)

― 参加者募集 ―

川柳吟行会「ぽ」

課題『風』

県内各地から桜便りが聞かれる4月20日(水)アウガでの合評会。出席者7名。投句者は21名63句になりました。春の風の句、ウクライナ関連の句が多い中、ことばが先行して作者の思いが伝わりにくい句も多かったような気がします。

今回は合評会を早めに切り上げて、これからの「ぽ」のことを話し合いました。吟行会「ぽ」としてはやはり吟行したいということで5月は「青い海公園」への吟行が決定!さわやかな5月の潮風に吹かれての吟行会楽しみです。参加できない人は「公園」一人吟行での参加になります。吟行会の句と一人吟行の句を合わせての合評も初めての試みで楽しみにしています。(こあき)

【8点】特×2・佳×4

16ビートだ千本鳥居ぬける風

宮井いずみ

【彰子】2022年度の風だ。16ビートの風だ、なんと若々しい風ぞ。伏見神社の千本鳥居が迫ってきた。【こあき】千本鳥居は京都の伏見大社が有名ですが青森の高山稲荷神社にもあります。16ビートの風につて朱の鳥居を抜けてみたいです。【啓子】軽快でさわやか。元気をもらえました。【州花】朱い鳥居が目には浮かぶ。【かなえ】音楽が苦手な私でも、突っ走れー感がよく解る【冬鼓】居並ぶ千本鳥居は圧巻。鳥居と風のコラボ。吟行感もあった。

【6点】特×2・佳×2

小女子の佃煮風の家族です

守田啓子

【旅男】焦げないように、甘く煮詰まった家族でしようか。仲が良さそう。何とか風つていうのはずるい。でも、小女子の意外性が良かった。【州花】同じ屋根の下に住みながら、一人一人の人生は違う。でも家族でいる時は

小女子の佃煮。【冬鼓】みんな違う方向を見ている小女子。佃煮家族とは愉快。【ふぶき】小魚がひしめき合って、それが美味しそうで、こんな家族つて楽しそうでいいなと思いました。

【5点】特×2・佳×1

お茶しましよ風になつてもあの丘で 守田啓子

【達毘古】死後の捉え方は現代でも人それぞれ様々ですが、あの丘で、風で、お茶、楽しそうですね。【朱美】死んだ後は風になると決めている。明日の 三時のレアチーズケーキが楽しみです。【吉見恵子】発想が面白い。今から口約束しているんですね。

反戦の風よ地球に吹き捲れ

上村夢香

【規子】世界の今を表す願いの一句だろうと思う。出来るなら吹き捲ってもらって、ウクライナだけでなくミャンマーの惨状も回復して欲しい。【柳本恵子】地球上の戦が一日も早く終わりますように。【紫の園】地球上に反戦の渦が吹き捲ってほしいとの気持ちが表現されています。

子【今の私の思いをそのまま句にしてくれている。手袋を履いて立ち読みしたい。

【3点】特×1・佳×1

風の彩心のままに七変化

柳本恵子

【紫の園】風に彩があるのも素敵、そのときの心そのままに風が七変化することを、さりりとして表現したところがよかったです。【夢香】いかにも春ーという感じですね。

鮎の風今年は親になる予定

岩根彰子

【吉見恵子】東風を「鮎の風」という、鮎の遡りなどを連想させる勢いのある言葉で選択。「親になる予定」を心待ちにする未来が爽やかに表現されている。【さち】嬉しい気持ちには伝わるが「鮎の風」を季語として使わず「風光る」とか「鮎踊る」などの方が嬉しさが強調されると思う。

チエルノブイリはここだったんだ風ささぶ

熊谷冬鼓

【さち】36年前の事故を知らない徴兵されたばかりの若者が、赤い森に斬壕を掘るという行為に改めて驚愕。下5が物足りないのが残念。【啓子】戦争が起きなければ知らなかったかも。

つむじ風方向音痴だったのか

小野五郎

【かなえ】つむじ風を方向音痴とした慧眼に感服。小さなつむじ風は見ていて楽しい。そんなつむじ風の雰囲気もあるのがいい。【隆志】妙に納得してしまう句です。こんなつむじ風なら許します。【与生】つむじ風によく会う作者の方向音痴が好き。

【5点】特×1・佳×3

花柄のワンピース着た風が来る

夏草ふぶき

【与生】「風」という題なので「風」が主役の句を特選に。擬人法の句は野暮に感じることが多いが「花柄のワンピース」の明るさに救われている。【達毘古】風の句多いですが、花柄ワンピースは意外でした。【五郎】軽快で楽しい表現である。【隆志】一見爽やかそうな娘がドラマをもたらしそう。

【4点】特×1・佳×2

本屋までは羽ばたける距離春の風

滋野さち

【文音】本屋まではの助詞「は」に作者の日常の許される距離を物語っている。春の風は淨き立っているのに。【彰子】春の風が言いすぎだが、羽ばたけるで許せる。【規

【3点】佳×3

まあまあとだめてくれる風が留守

渡邊こあき

【与生】擬人法というよりもこの句の「風」は人そのものですね。「留守」に哀しみを感じる。【朱美】頼りになる風が留守だなんて、風は夫かな。【いずみ】だめ役を持ってないリーダーは時限爆弾である。

【2点】特×1

風光る前立腺のある写真

月波与生

【五郎】上の句とその後のつながりが斬新。意味するところが深い。

蝶一頭どこへと逃る国はなし

吉見恵子

【冬鼓】残酷卑劣なロシア侵攻に果敢に挑む人たち。カメラの前で泣き叫ぶ人は少ない。歯を食いしばって戦ってきた長い歴史があったのだから。

何時かまた麦の穂揺れるウクライナ

村井規子

【夢香】地球上から早く戦争がなくなることをただ願うばかりです。

そよ風へ肩の力を抜けば春

宮井いずみ

【ぶぶぶき】寒さで長い間身を固くしていたところに吹いてきた春風に、体も心も力を抜けるって春っていいですよ。

風鈴も僕も泣きたくなる朝だ

城後朱美

【啓子】泣きたい理由はさておき風鈴と僕の並列が自虐的でちょっと笑える。

死刑台の隣に風を座らせる

笹田隆志

【いずみ】ウクライナの惨状はあたかも死刑台のようだ。何とか風を説得して風向きを変えられないものか。

キエフからキーウに変わる春風

滋野さち

【吉見恵子】キエフからキーウに変わるのが珍しく早く感じました。正に「春風」でした。【柳本恵子】春風一日も早くやむように願っています。

目隠しをはずすと春の風がいた

夏草ぶぶき

【達毘古】どんな顔していたのでしょうか？【五郎】す

十和田たてがみ川柳会四月（誌上）句会

【参加者】磯島雅男・木村奈生美・斉藤蛙井・佐藤まさあき・城後朱美・瀧尻善英・中村英三・福田芳記・村上昌子・高田幸柳

■課題 『くつきり』

村上 昌子 選

クッキリのダブルレインボー追いかける	磯島 雅男
くつきりと郷土の山の近くなり	中村 英三
白内障手術をしたら見えすぎる	福田 芳記
企みがバレバレだった仏法僧	高田 幸柳
前撮りの娘くつきり水着跡	城後 朱美
くつきりと想い出せない墳墓の地	斉藤 蛙井
自画像の鼻くつきりと自尊心	木村奈生美
青春の罪がくつきり日焼け跡	高田 幸柳
くつきりの星空嘘も無駄も無い	木村奈生美
自分史がくつきり浮き出る掌のシワよ	斉藤 蛙井
真っ白な修羅が顔出すレントゲン	瀧尻 善英

なおな作り方。春をむかえた悦びに溢れている。

ドトールの一卓盗む風来坊

旅 男

【彰子】一卓が良いですね。風来坊は身軽です。【文音】ドトールでちょっと粋な風来坊と目があったとドラマチックを思いました。

万年筆のキャップ啜えて風を吹く

笹田隆志

【いずみ】文章の力は今でも大きい。さあ風を起こそう。【文音】ふっと思いに息詰った時キャップを吹いたことがあった。物淋しい音だった。

(1点句は割愛いたします)

【秀逸】

休暇明け妻くつきりと高い鼻

城後 朱美

「好きです」とそこだけ色濃いラブレター

佐藤まさあき

【特選】

富士山を写す湖面の水鏡

瀧尻 善英

■課題 『くねくね』

佐藤まさあき 選

はじめての競歩くねくねまでいかず	福田 芳記
くねくねと孫の初書きのたうつ字	中村 英三
くねらせて腹出シタマのごあいさつ	村上 昌子
くねくねと裏道やさしい月がある	斉藤 蛙井
くねくねと辿る想い出飲み屋街	磯島 雅男
寄り道の人生だけど未だ枯れぬ	瀧尻 善英
由布岳へくねくねの登山道	城後 朱美
人生を曲がりくねった靴の減り	木村奈生美
くねくねの道できれいな花愛でる	城後 朱美
頂点を目指すくねくね登る日々	磯島 雅男

□ 2022.06.20 第73回 一朵の雲 まつやま川柳誌上大会

【募集期間】令和4年5月10日～6月20日(月) 必着【宿題・選者】(各題2句)『坂』青野舞(今治)・八上桐子(兵庫) 共選/『オフ』高市すみこ(松山)・石橋芳山(鳥根) 共選/『表情』西村寛子(四国中央)・熊谷冬鼓(青森) 共選/『五分五分』郷田みや(松山)・井上一筒(大阪) 共選【二次選者】栗田忠士・大前尚道・大内せつ子・および一次選者8名【投句方法】○未発表作品に限ります。各題共選ですので、両方とも同じ句を書いて下さい。○応募句のほかに、雑詠を発表誌に掲載しますのでその1句をお書きください。○所定の投句用紙(コピー可)を使用し、参加費とともに下記までお送りください。【送付先】〒791-0212 愛媛県東温市田窪1976-17 野口三代子方「第73回 一朵の雲 まつやま川柳誌上大会」係あて【参加費】1,000円(切手不可) 発表誌送付(9月上旬予定)をもって領収書に替えます【贈賞】知事賞ほか(特選方式による)及び秀句賞(各題3句)【主催】川柳まつやま吟社【問合せ先】川柳まつやま吟社事務局 大前尚道 まで 電話(089)952-6774

□ 2022.06.30 第11回東北川柳文学大賞募集

【応募資格】東北6県の在住者(災害による避難先は可)【応募用紙】専用の応募用紙(コピー可)またはA4版の原稿用紙に縦書き。その際冒頭にタイトル・未発表作品10句・郵便番号と住所・柳号(氏名)・電話・所属結社の順で明記。*用紙必要な方は事務局に連絡してください。【応募料】1篇¥1,000(複数応募可)なお、応募時に大賞受賞者句集の購入予約(句集予約と添書きし、1冊につき¥1200同封)をいただくと送料無料でします。【締め切り】2022年6月30日(消印有効)【選者】齊藤由紀子(東京)・芳賀博子(兵庫)・長谷川酔月(秋田)・熊谷岳朗(岩手)・小林左登流(福島)・山口まもる(山形)・雫石隆子(宮城)・高瀬霜石(青森)【賞】大賞～賞状・記念品・副賞として川柳句集の無料発行権と100冊授与【発表】2022年8月中旬予定(受賞者に連絡)【表彰】10月9日(日)第40回東北川柳連盟大会(秋田市)大会席上*予定【応募先】〒038-3288 青森県つがる市木造出来島33 東北川柳連盟 東北川柳文学大賞係【連絡先】東北川柳連盟事務局 濱山哲也 ☎080-5574-9297【主催】東北川柳連盟

■課題 『鎖』
 【平抜き】
 ブレスレット鎖が切れて恋終わる
 からみつく鎖と草は刈っておく
 一本の鎖で緩み引き締める
 プーチンを人の鎖で縛りたい
 勇退で重い鎖を返上し
 ギッシリと技術が詰まる鎖です
 鎖引き老舗の閉店新時代
 貧しさの鎖切れずに丸く古い
 ツツパリの昔はチェーン今ナイフ

瀧尻 善英 選
 城後 朱美
 村上 昌子
 木村奈生美
 福田 芳記
 高田 幸柳
 磯島 雅男
 中村 英三
 村上 蛙井
 村上 昌子

くねくねと優柔不断で決められず
 【秀逸】
 見事ですくねくね水面渡る蛇
 いろは坂ぶれぬガイドの歌謡曲
 【特選】
 九十九折り昭和・平成・令和生き

中村 英三
 中村 英三
 村上 昌子
 瀧尻 善英

不自由な犬の鎖の音悲し
 平和への鎖となつて手を繋ぐ
 【秀逸】
 我がままなペットに欠かせない鎖
 淋しげに鎖曳きずる迷子犬
 【特選】
 信頼が生まれ心の鎖解く

村上 昌子
 佐藤まさあき
 木村奈生美
 高田 幸柳
 佐藤まさあき

◆十和田たてがみ川柳会6月句会案内◆
 【時】6月18日(土) 午前10時から 【所】十和田労働福祉会館【宿題】(各題三句詠)『好奇心』久保あざみ 選/『コピー』齊藤蛙井選【互選】(一句詠)『豪華』
 当日出席者のみ(句せんの裏に柳号記入)【席題】一題(三句詠・共選) / 選者は、瀧尻善英ほか出席者から一名【投句先】〒034-0212 十和田市米田字桜平72 高田幸柳宛

■会費拝受【4月受付分】

岩崎雪洲（黒石市）/ 村上昌子（十和田市）/ 瀧尻善英（八戸市）/ 北野岸柳（外ヶ浜町）/ 岸井ふさ系（大
阪府）/ 大内せつ子・吉松澄子（以上愛媛県）/ 中川喜代子（愛知県）

■おかげょうき川柳社会員募集中！

会員ならびに当誌購読希望の方は、下記の口座までお振り込み下さい。

→郵便振替 No.02280-6-43112 口座名：おかげょうき川柳社

→会費：6,000円（1年分）

おかげょうき川柳社 お問い合わせ先

●投句以外のことについてはこちらへ●

熊谷冬鼓 toko@okajoki.com FAX.017-752-3759

終着駅 Sin

◆いよいよ来月、「川柳ステーション2022」が開催されることとなった。主催者は参加者の安全を考えて少し慎重にならざるを得ないが、GW後の感染状況もさほど悪くはなっておらず、全国的にも新規感染者数は落ち着いているようだ。さて、その川柳ステーション。スタッフ会議では、どのように開催したらいいかが難しいところだった。会場も15人以下であれば引き受けられないというハードルがあるとはいえ、さほど、準備期間もあつたわけではなく、大規模な企画も厳しいのだが、いざ立てたところで、7月のコロナ状況も見えないまま、選者の許諾や当日の参加者数が果たして開催にまでこぎつけられるかどうかの判断が非常に難しかった（汗）であれば、大規模な企画は立てず、リモート披露という形でなかはられいこさんにご協力を依頼し、月例会の少し拡大版くらいで再スタートを切ったらどうかというところで落ち着いたはずだった◆ある日、れいこさんから

LINEが来た。「当日、もしかしたら「ねじまき句会」から何名か出れるかもー」と。句会の拡大版でお茶を濁そうとしていたところ、さらに、企画がないので、当日時間が余りそうだと思っていたこちらの心の叫びが聞こえたかのようなサプライズに思わず、「ちなみに、その方々にも共選という形で選者してもらって、三人で討論してもらって、「ねじまき賞」一句決めるってのはどうですか？」と飛び乗ってしまった（我ながら図々しいにもほどがあるww）いやーまさに、願ったり叶ったり、渡りに船、地獄でなかはられいこに会う、である◆そんなこんなで、今年は急に「川柳ステーション2022 feat.ねじまき句会」となった。そうなた以上、15人以上集まってもらわないと困るのである。なので、いろんなコネを使って、大会会場を4回目のワクチン接種会場にしたら、15人以上は来てくれるのではないかと画策しているのだが、接種後の待機時間だけで大会が終わってしまいそうだ◆Sin

おかげょうき川柳社 作品募集案内

□ 2022.06.15 川柳ステーション2022 事前投句

【投句締切】6月15日（日）【題・選者】『祭』2句・なかはられいこ選【投句方法】非会員や大会当日不参加でも無料で参加出来ます。投句はオンラインのみでの受付となります。https://forms.gle/DXXX6hE42upUWYDb8 より投句できます。*選結果については、個別へのご連絡はいたしませんので、ステーション終了後の柳誌がウェブサイトを確認ください。

□ 2022.06.20 おかげょうき会員雑詠集「無人駅」5句（8月号分）

【締切】6月20日15時必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句（最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入）【掲載】8/10発行号【ウェブサイトからの投句】http://www.okajoki.com/toku/mujineki.html【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛

□ 2022.07.02 川柳ステーション2022

【時】7月2日（土）12:30受付開始/13:00開会【場所】リッチモンドホテル青森5階（青森市長島1丁目6-6・電話017-732-7655・駐車場有）【参加費】5,000円（句会・懇親会・発表誌）【事前投句】6/15締切・特別選『祭』なかはられいこ選/リモート披露【宿題】（各題2句）『復』岩崎眞里子・きさらぎ彼句吾共選/『活』笹田かなえ・菊池京共選 *事前投句なしでも参加できます

□ 2022.07.13 「川柳吟行会 ぼ」7月句会

【投句締切】7月13日（第2水曜日）【題・投句数】『川』3句【合評会】7月20日（第3水曜日）アウガ5階で14:30～【投句・問合せ】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛 *それぞれの地で一人吟行して作句し投句願います。参加者全員による選・選評をメールで交換。入選句・選評等は後日月刊おかげょうきに掲載。メール交換できる方ならおかげょうき会員以外でも参加可。年会費1,000円。

川柳ステーション

特別選 (2句詠・事前投句:6/15(水) 〆)

「祭」

なかはられいこ 選

(岐阜県:「ねじまき句会」所属:杉野十佐一賞選者)

瀧村 小奈生 選

(愛知県:「ねじまき句会」所属)

二村 典子 選

(愛知県:「ねじまき句会」所属)



- ◆非会員や大会当日不参加でも無料で参加出来ます。
- ◆特別選の投句はオンラインのみでの受付となります。
スマホで左のQRコードを読み込むか、
<https://forms.gle/1eiWauQguZjJ7gRH6> にアクセスして投句してください。
また、おかじょうき川柳社のウェブサイト (<http://www.okajoki.com>) にも投句ページへのリンクを掲載しています。
- ◆ただし、選結果については、個別へのご連絡はいたしませんので、柳誌かウェブサイトでご確認ください。

宿題 (2句詠・二人共選)

選者交渉中

「復」

岩崎眞里子 (黒石市)

きさらぎ彼句吾 (弘前市)

共選

「活」

笹田かなえ (八戸市)

菊池 京 (青森市)

共選

2022.7.2 (土) 13時~ (受付開始: 12:30)

■場所: リッチモンドホテル青森 5F「ブリリアンテラス」
(TEL.017-732-7655 / 青森県青森市長島1丁目6-6)

■会費: 5,000円 (句会・懇親会費込)

